

Principal Correspondence

20年目の新たなスタートにあたって

リリーベール小学校は全国でもめずらしい「幼少一貫教育校」として 20 年前に開校しました。

私たちの考える幼少一貫教育とは

幼児のうち(臨界期9歳までに)できるだけ「**直接体験**」を重視し(例えばリリーベールでは教科書に載っている理科の実験は全部行います。教科書を読むだけとか、ビデオを流して終わりということはしません。), 「好奇心」「探求心」を育む教育を目指しています。加えて知識偏重の「先取り学習」や、まるで塾のような教育ではなく、**しっかり基礎, 単元を反復徹底習熟**します。



とはいえ授業時間数が公立校より 20~25%多いですから習熟をしっかりやっけていながらも、例えば算数が5年生の後期には6年生の領域に自然に入っていく様なことはあります。また、4~6年生に導入しているタブレット「すらら」学習システムは、主要科目のつまづきをさかのぼって自習(学年をさかのぼることも出来ます。)出来る一方、興味がある子は中学の算数や英語などに踏み込んで学習できるツールでもあります。

「それでは先取りして1~2年生からタブレットを持たせて、学習させたら？」
という方もおられるかもしれません。

しかし、いくらコンピュータのアートやデザイン技術が進んでも、デッサンの出来ない人がアーティストになれないように、9歳までにノートに鉛筆で漢字を書くこと、筆算をすること、ノートに線を引き図形を描くこと、植物を育てる、卵を割る、マッチを擦る?などの「**基礎体験**」を**しっかりやらないで勉強を詰め込んでも、砂上の楼閣と**なってしまいます。

子どもたちの中に眠っている**多様で多彩な才能**を**ゆっくり目覚めさせ、幼少期に「脳の器」を大きくし「自ら考え、学び行動する子」に育てることが大事だ**と考えています。



遠回りの様ですが、能力を伸ばすには、この考え方が最も近道であることをご理解ください。

Principal Correspondence

働く意味

「人は何で働くか？」という問いに多くの人が、様々な答えを持っていることと思います。簡単に言うと、お金をもらって働く人を「プロフェッショナル」と言い、報酬をもらわないで働くことを「ボランティア」と言います。これはどちらも尊い…。

職業、つまりプロフェッショナルの第一の目的は「報酬」です。

人は食わなければ生きていけない。生存は第一。

お金は少々でも多いに越したことは無い。だからといって人は報酬のためだけに働くか…？

下記は百年前の英国ロンドンでの第1回南極探検隊員募集の広告です。

南極探検隊員募集

求む隊員。
至難の旅。
わずかな報酬。
極寒。
暗黒の日々。
絶えざる危険。
生還の保障はない。
成功の暁には名誉と賞賛を得る。



アーネスト・シャクルトン卿によるこの広告で5000人の若者が応募し、優秀な隊員をリクルートでき、探検隊は一人の犠牲もなく越冬を終了したと言います。



働く意味には「社会への貢献」や「自己の成長」も大きいらしい。むしろその「意味」が強ければ強いほど、人は生きがいを感じ、幸福感を得るらしい。

今度一万円札のモデルになる、かの渋沢栄一翁は「論語と算盤」の中で「企業の利益と公共の利益は一致しうる。」と説かれました。できれば

企業自身の経済活動が社会の利益に繋がることが大事。またはその企業活動で得た利益を、福祉や社会事業に役立てること(フィランソロフィー)も大事です。

生涯多くの時間を費やす「仕事」が“やりがい”と“生きがい”のあるものになるように子どもたちをリードしていきましょう！